

亀山通信

第41号

発行者 浜田高校通信制課程
住 所 浜田市黒川町 3749
T E L 0855-22-0187 F A X 0855-22-2549



平成30年度（第7期）島根県立浜田高等学校通信制課程 卒業記念 平成31年3月2日

平成31年3月2日（土）、第70回卒業証書授与式が厳粛かつ盛大に挙行されました。全日制198名、定時制9名、通信制19名の卒業生が卒業証書を受け取り巣立って行きました。

通信制卒業生の19名のみなさん、卒業おめでとうございます。自学自習が基本の通信制で学習することは決して易しいことではなかったと思います。また、学業と仕事を両立させてがんばった人もたくさんいます。みなさんのがんばりを見てきた私たち教職員も、この日を迎えることができたことをとてもうれしく思います。

これからも山あり、谷ありの人生だと思いますが、通信制で過ごした日々を糧に人生を切り拓いていってください。



第41号の主な内容

- ◎表紙・・・・・・・・・・・・・・・・P 1
- ◎校長式辞・・・・・・・・・・・・P 2～3
- ◎卒業生代表答辞・・・・・・・・P 4～5
- ◎卒業生授賞式・・・・・・・・・・P 6
- ◎在校生授賞式・・・・・・・・・・P 7
- ◎生徒総会・冬季集団研修・・・・P 8
- ◎テーブルマナー講習会報告・・・P 9
- ◎卒業生進路状況・・・・・・・・・・P 10
- ◎保健だより・・・・・・・・・・・・P 11
- ◎お知らせ・・・・・・・・・・・・P 12
 - ・平成31年度開講講座一覧表・P 13
- ◎副校長より・・・・・・・・・・・・P 14

浜高HPのQRコードです。活用してください。

<https://teitsu.hamakou.ed.jp/>



式 辞

弥生の月の訪れとともに、凛と張り詰めた空気の中にも、春の訪れが感じられる頃となりました。

本日、平成三十年度第七十回島根県立浜田高等学校卒業証書授与式を挙行するに当たり、ご多用の中、島根県議会議長、大屋俊弘様、全日制PTA会長、山根真一郎様をはじめ多数のご来賓の皆様のご臨席を賜り、式を執り行うことが出来ますこと、高い所からではありませんが、卒業生並びに本校教職員を代表して、こころよりお礼を申し上げます。

保護者の皆様、お子様のご卒業、誠に御めどうございます。お子様にとって高校生活は、社会の一員となるために必要な経験を積み重ねる成長の期間でした。お子様が勉強や部活動、友だちとの関係などで悩んだ時に、適切な助言と支援をされるなど、多くのご苦勞があったことと推察いたします。そのような中、浜田高校の教育活動にご理解、ご協力をいただきましたことを、深く感謝申し上げます。ありがとうございます。

さて、ただいま卒業証書を授与しました二百二十六名の卒業生の皆さん、卒業おめでとうございます。浜田高校で過ごした年月は、各課程或いは個人によって様々ですが、一人ひとりにとってかけがえのない、また思い出深い年月であったと思います。定時制課程を卒業する九名の皆さんは、

定時制・通信制校舎から巣立つ卒業生として、七代目になります。あの学び舎で高校生活を送りながら、仕事を通じて様々な経験を積んだり、社会の厳しさに直面したりしながらも、向学心を持ち続け卒業を目指して頑張ってきました。定時制の仲間や先生方の励ましのなかで、高校を卒業するという目標を立派に果たした皆さん、本当によく頑張りました。「学ぶこと」の大切さを様々な人との出会いの中で感じ、「学ぶこと」の楽しさを学校に登校し友達や先生との出会いの中で感じながら、明るく元気に高校生活を送った皆さんの人知れぬ努力に対して、心より拍手を送りたいと思います。

開設七年目となる通信制課程を卒業する十九名の皆さんも、自らの力で学ぶという通信制の「学び」を理解し、本校や大田、益田でのスクーリング、レポートの提出、そして前期・後期制による試験と、ハードルを一つ一つ自らの力で乗り越え、本日を迎えられるました。学業だけでなく仕事や家事・育児の両立をしなければならぬ方もあったなかで、「高校を卒業する」という目標に向かって、自ら努力し、先生方の支援をうけ、そして家族の励ましにより、高校卒業に必要な単位を修得されました。いろいろな不安や悩み、そして苦勞があるなかで、通信制での学び直しを決意して浜田高校に入学し、決して楽ではない道を着実に歩みを進め、卒業の時を迎えた皆さんに對して、心より拍手を送りたいと思います。

本当によく頑張りました。改めてその努力に敬意を表します。

全日制課程を卒業する百九十八名の皆さんは、「高い理想、誠実な努力」の教育目標の下、一人ひとりが勉強と部活動の両立に努めながら、努力を重ねてきました。毎日の授業に取り組みながら学問の深遠さを感じ、部活動を通じて日々の精進の大切さと勝負の厳しさを体感し、学園祭など学校行事やホームルーム活動で協調性やリーダーシップの大切さを学び、様々なことに挑戦し、そして成長した3年間の高校生活であったと思います。皆さんがこれから進んでいく時代は、直面する様々な課題を自らの力で解決する力が求められます。高校時代の学びは、与えられることが多かったかもしれませんが、与えられることが多かったかもしれません。ところがこれからは、主体的に学び、自ら考え、周りの人と解決について協力し、自らの力で進む道を切り開く姿勢が求められます。高校時代の学びを展させ、何事にも積極的に取り組むアクティブな姿勢が一層求められます。百二十五年を超える浜田高校の歴史と伝統を受け継ぎ、国内、国外様々な場所や様々な職業で活躍する人材、地域の未来を担う人材となる気概を持ってほしいと思います。保護者の皆さん、地域の皆さんなど多くの方の期待に応え、誠実に努力を続けてきた皆さんを誇りに思い、そして期待をしています。ここで、新たな環境に向けてスタートを切る皆さんに、次のことをお願いしたいと思います。

これから皆さんは、進学や就職をして新しい一步を踏み出すこととなります。高校時代に学んだこと以上に色々なことを学び、新しいことに取り組んでいく場面に出会うと思います。研究に携わる人もいるでしょう、物作りの現場で働く人もいるでしょう、多くの人とつながる仕事に関わる人もいるでしょう。いずれにせよ、皆さんそれぞれが色々な場所で、日本の未来を支える人材になります。そして、二十年、三十年先の未来の日本が今以上の社会となるように活躍するのが皆さんです。ぜひ、自分は社会の一員として、日本を支え、社会に貢献するのだという思いをもってほしいと願っています。社会の発展のために用いられるような研究開発をする人、社会の一員として現場で活躍する人、どのような仕事をしていても、どのような立場になってもそれぞれが日本、島根県、そしてこの浜田市の担い手となってほしいと願っています。

特に私が願うのは、色々な形で自然災害に立ち向かう人がこの中から育ってもらいたいということなのです。日本は世界にまれに見る災害大国です。先日も、北海道で地震がありました。この島根県でも昨年4月には、大田市を中心にやはり地震がありました。そのほかにも、本当に多くの災害がありました。豪雨災害、地震災害、台風災害は昨年四月以降に起こった災害です。いずれも、甚大な被害が出ています。一年を表す漢字でも、「災」が平成三十年の漢字でした。自然災害はいつ起こるか分かりません。もし、災害を事前に予知する技術を開発することができたり、災害の

被害を低減する技術を構築できれば、災害大国日本ではなく、防災大国日本になります。研究者として自然災害を予知して被害を未然に防いだり低減する方法の開発に携わる人、災害現場で直接支援して働く人がこの中から出てもらえるならば、本当に素晴らしいことだと思います。私たちは、今の生活が当たり前のように感じていますが、未来にどのようなことが起こるかは誰も知ることができません。そうであるならば、何が起っても良いように準備をしておく必要があります。もしそれができれば、日本の未来は大きく変わると思います。皆さんの中からその一翼を担う人材が出てくれれば、大変嬉しいと思います。

そして繰り返しになりますが、自然災害の例だけでなく、様々なことについて皆さんは日本を支える人材であるという思いをもって活躍してほしいのです。皆さん一人ひとりの力は、微力かもしれませんが、しかし、多くの人が集まり、考え、工夫すれば問題を解決することが必ずできるはずです。ここにいらっしゃる皆さん一人ひとりが、その力を日本の未来を支える力として使ってほしいと思っています。日本の未来を担う皆さんに、ぜひこのことをお願いしたいと思います。

四月から皆さんは人生の新たなステージに立ちます。それぞれが、高校時代に抱いた「夢」や「理想」を、現実のものとして花開かせていくことを私は願っています。もし、人生の苦難に直面する時があれば、その時に浜田高校の校舎、浜田高校の校歌を思い起こし、元気を出して、勇気を奮つ

て、自らの「夢」や「理想」を実現するよう頑張ってください。

旅立ちの時が来ました。最後になりましたが、「二百二十六名の卒業生一人ひとりの未来に大いなる幸あれ」と心より祈り、式辞といたします。

平成三十一年三月二日

島根県立浜田高等学校 校長

今井 靖



答 辞

やわらかな日差しが心地よく、春の訪れを感じる季節となりました。本日、ここに卒業の日を迎えることが出来、大変うれしく思っております。

私たちのためにこのような素晴らしい式典を挙げていただき、心から御礼を申し上げます。

私は今年で三十五歳になります。鹿児島で生まれ、小学生のころに両親が離婚し父親と弟と祖父母と生活していましたが、もともと勉強に関心がなく中学時代は休んだり昼から登校したりと自由に暮らしていた私に、父はとても厳しく接し、反発を感じてばかりいる存在でした。ところが中学三年の時に、その父が亡くなってしまったのです。末期がんでした。体調がすぐれないことは感じてはいましたが、かなり我慢をしていたのだと思います。亡くなってみると、そのショックは想像以上でした。

その父が病室で「高校には行きなさい」と言った言葉が頭から離れませんでした。「早くお金を稼げるようになりたい」とばかり考えていた私も、高校進学を真剣に考えるようになり、やがて地元高校への入学を決めました。

父の死後、私たちの生活を支えてくれたのは祖父でした。私の高校入学が決まった時、とても喜んでくれたその祖父が、父の死から一年も経たないうちに亡くなってしまったのです。

高校で新しい友達もでき、生活にも慣

れてきた矢先のことでした。短期間に悲しい出来事が次々と起こったことに、戸惑いを通り越してあきらめにも似た気持ちを抱いてしまいました。

そしてこれを機に高校も辞めてしまいました。せっかく出来た多くの友達から引き留められたのに、それを振り切ったことでした。高校には何の未練もなかったのに、その時の友達の悲しげな顔はずっと記憶の片隅にありました。

その後は地元のスーパーやコンビニ、町工場の事務員などと職を転々とし、それなりに楽しい生活を過ごしていました。

以前からひそかに続けていた母との面会は、もう誰に遠慮することもなくなつたので、お互い都合のつく日は会って、愚痴を言ったり一緒に遊んだりもしていました。

ところが、私が二十歳のとき、その母までが亡くなってしまったのです。父が亡くなって六年後のこと、死因は父と同じくガンでした。母の死の後は何もする気が起きなくなり、家に引きこもってしまいました。今まで頑張っていた心の糸が切れ、やり場のない悲しみがあふれて止まりませんでした。

何をして良かったか記憶にないような日々が三か月ほど続きました。そんな私を社会に引っ張り出してくれたのは幼少期からの友達でした。そこには高校を辞める時、引き留めてくれた友人もいました。こんな私のことを真剣に思ってくれている人がいる。そのことだけで勇気が湧い

てきたものです。

その後、元氣を取り戻すためにも職探しに奔走し、ハローワークにも足しげく通いましたが、そこで痛感したことは求人票の多くに高卒以上という条件が書かれていることでした。また、そうは書いてなくても、実際に面接に行くと、担当者から中卒ということだけで不採用を言い渡されたことは、一度や二度ではありませんでした。

しかしこのような生活の中で転職が訪れました。勤めていたドラッグストアで出会った人と交際が始まって四年目の時に、彼が出身地の浜田市に帰ることになったのです。それと同時に結婚の話が出ました。私が二十八歳の時です。弟を残していくことに迷っていた私に、幼い時からよくしてくれた叔父がこう言ってくれました。

「弟のことは心配せずに、自分の幸せを考えなさい」

この言葉のおかげで、私は覚悟を決めることが出来ました。結婚して浜田市に来た当初は何もかもが戸惑うことばかりでしたが、知り合いを作るためにバイトを始め、何人かの親しい友人もできました。

三年前からは郵便局に勤める夫の仕事を援助するための研修もかねて、彼とは別の簡易郵便局で仕事を始めました。その時の郵便局の局長さんが、私の二度目の転職である浜田高校通信制への入学を勧めてくださったのです。

浜田での生活にも慣れ、もう一度高校に通うとは思っていません。私が高卒を望んでいた父への親孝行にもなると思います、入学を決めました。いざ勉強を始めると、プランクがある分どの教科も難しく、四苦八苦しながらレポートに取り組みました。職場の方でも学業に配慮していただき、とても助かりましたが、それでも提出がギリギリになったり、先生方にはとても心配をかけたと思います。

それでも何より心の支えになったのは、夫が私の選択を心から応援してくれたことです。大学卒の夫は、私が高校に通い勉強することがうれしかったようで、分からない科目は教科書を使って積極的に教えてくれました。家族の支えは何より心強いものだと感じました。

学生生活の中でも、実道高校で行われた生活体験発表大会で代表として発表したことがとても印象に残っています。先生と何度も打ち合わせをしましたが、当日の本番ではやはり緊張のあまり手が震え、頭の中が真っ白になりました。それでも何とか無事に発表を終え、安堵したことが昨日のように思い出されます。

以前、私が通信制高校に通っていることを中学時代の友人にメールしたら、「うれしい報告ありがとう！」との返信が来ました。また鹿児島の親戚からは「昔のあなたから想像できないわ、頑張ってるの手紙をもらいました。」

それらはすべて私の心の支えになっています。

私は在学中にたくさんの方の支えを学びま

した。そして今回このような役をいただき、準備のために過去の記憶をたどり人生を整理していく中で、多くのことに気づきました。

一人で生きてきたわけではないこと。陰で支えてくれたたくさんの方がいたこと。

何気なく過ごしてきた毎日をとていとおしく振り返ることが出来るのは、その人たちのおかげだと思います。

一緒にこの学校を巣立つ卒業生の皆さんにも、この学校でさらに勉強を続けていく在校生の皆さんにも、きっとそんな大切な人たちがいらっしゃるでしょう。その人たちとの絆を大事にすることが、これからの人生の支えになっていくのだと思います。

あと十年もしたら、私も両親が亡くなった年齢になります。二人の分も、そして私を支えてくれた祖父以上に長生きして、周囲の人たちの力になれるよう、そして後悔のないようこれからも頑張っていけたらと思います。

最後になりましたが、今日までご指導くださった先生方、ともに学生生活を過ごした友人、大切な家族、お世話になった全ての方に深く御礼を申し上げて、答辞とさせていただきます。

平成三十一年 三月二日

通信制卒業生代表

酒井 くるみ





平成31年2月26日（火）青空の下、4名の来賓をお迎えして、卒業生授賞式を行いました。

校長からは卒業生に向けて激励の言葉が贈られ、PTA会長様からは丁寧で心温まる祝辞をいただきました。

受賞した生徒は、以下のとおりです。

賞 名 称		受 賞 者
全国高等学校 定通教育振興会	修学優秀者	大庭 咲希、森山 絵梨
全国高等学校 通信制教育研究会	優秀者賞	三上 遙、吉山 宙果
島根県高等学校 定通教育振興会	優秀者賞	酒井くるみ、島田 修宏、邊根 悠真
亀山賞	検定合格の部	森山 絵梨
	継続就労と 学業両立の部	大庭 咲希、小林 七瀬、酒井くるみ、 坂根 絵莉、島田 修宏、田村 未那、 堂端 佑香、中西 玲未、三上 遙、 山沢 亘暉



在校生授賞式

2月19日(火)生徒総会終了後、在校生授賞式を行いました。島根県生活体験発表大会第2位の栄誉に輝いた佐々木夢來さんの表彰と在校生の亀山賞の表彰をしました。今年度の在校生の亀山賞受賞者は以下の表のとおりです。自らの進路実現に向けて検定に一生懸命取り組んだ人、仕事をしながら学業に取り組んだ人、みなさん、よく頑張りました。



【在校生 受賞者一覧】

＜検定合格の部＞	＜継続就労と学業両立の部＞
山 口 凌 日本漢字能力検定 準2級	西 田 淳
小松原 麻衣 日本漢字能力検定 3級	坂 根 卓
山 崎 郁 乃 日本漢字能力検定 2級	小 野 静 空
齋 藤 瀬里南 実用英語技能検定 準2級	春 若 光 貴
	齋 藤 瀬里南
島根県生活体験発表大会 第2位 佐々木 夢來	

※亀山賞とは

亀山賞は、将来の進路に向けて日々地道に努力を重ね、検定に合格した生徒、また、学業と仕事を両立させて頑張った生徒、その他各種大会等で優秀な成績を修めた生徒に贈られるものです。

生徒総会

2月19日(火)11:00から多目的教室で第2回生徒総会を開催しました。新旧生徒会役員の交代を行い、今年度の生徒会行事のふりかえりをしました。今後の予定を発表し、最後に「生徒会会則」の改正について審議しました。



平成31年度の
新課程代表は
今若香華さんです。

冬季集団研修

2月19日(火)午後、「サン・ビレッジ浜田」で冬季集団研修を実施しました。12名の生徒が参加しました。最初は、スケートを行いました。初めてスケートを体験する人もいましたが、スタッフの方による指導を受けて徐々に手すりを使わずに滑れるようになりました。お互いに補助し合いながら、みんな楽しく滑っていました。後半は、カーリングの体験をしました。2チームに分かれて対戦しながら楽しく取り組み大変有意義なひとときを過ごすことができました。学校行事だけではなく、プライベートでもサンビレッジ浜田を利用し、休日を楽しんだり、身体を動かす楽しみを増やすことができると良いと思います。



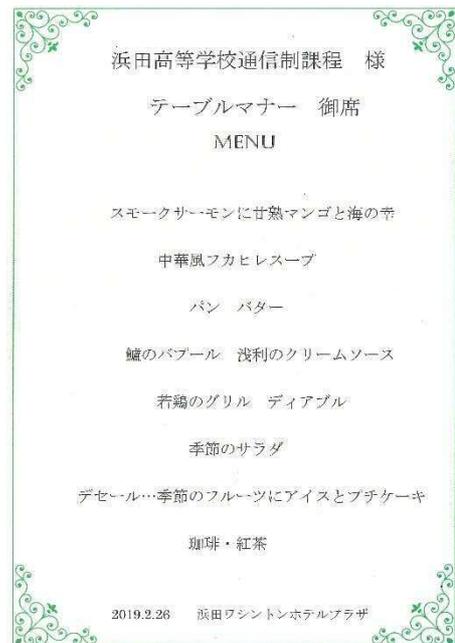
テーブルマナー講習会

2月26日（火）卒業予定生の授賞式終了後、ワシントンホテルでテーブルマナー講習会を実施しました。卒業予定生3名が参加しました。

基本的なナプキンやナイフ・フォークの扱い方、パンやスープの食べ方などを説明してもらいながら、フランス料理をコースでいただきました。大切なマナーとして、「食事をするスピードをみんなに合わせる」ことや、レディファーストや食事中的話題についても具体的に教えていただきました。

参加した生徒からは、「ナイフやフォークの使い方を初めて知った」、「お皿を動かすのはマナー違反だとわかった」、「将来、ホテルやレストランで食事をするときに役に立つと思う」などの感想がありました。

今後、様々な人と食事をする機会があると思います。この経験を少しでも活かして社会人としての振る舞いができるようになることを期待しています。



卒業生進路状況(通信制)

H31. 3. 2

クラス	進路先	クラス	進路先
浜田 9名	食品会社	大田 5名	4年制私立大学(人間科学)
	就労に向け調整中		福祉施設
	アルバイト継続		自営業の手伝い
	市内簡易郵便局		アルバイト継続
	建設業(広島)		4年制大学受験
	専門学校(松江市内)	益田 5名	飲食店(福岡)
	専門学校(松江市内)		島根県立西部高等技術校(益田) 2名
	介護施設(広島)		旅館(江津)
	未定		島根職業能力開発短期大学校(江津)

※この他に高卒認定試験を活用して進学を希望している生徒もいます！

進路指導室にある本の紹介と利用について



「楽しく学べるマナーの基本」 教育図書株式会社

今年度、定時制通信制支援協議会の助成により30冊購入させていただきました。身だしなみや立ち居振る舞い、敬語の使い方、あいさつのマナーなど社会人として必要となることがイラスト付きで書いてあるものです。就職面接や大学受験での面接に役立つものです。希望者には貸し出す予定です。まずは進路部の先生に尋ねてみてください。



働こう@浜田 × LINE@

浜田市の企業・就活イベント情報および定住情報などが配信されています。興味のある人はお友だち登録して見てください。

右のQRコードを読んでね！！

お友だち
募集中



保健だより 3月号



新年度を迎えます。何を始めるかなど、いろいろなことに思いをはせている時期かと思います。何をすることも身体が健康であることが大切です。生活習慣を整えて、元気に新年度を迎えましょう。



今できる！新学期の準備

- ① 生活リズム ……時間を意識して生活するように心掛けましょう。日々の自分を支えます。
- ② 片付け ……整理整頓を。ただし、昨年使った教科書の中には今年も使うものがあるかもしれません。確認をしてから捨てましょう。
- ③ 目標 ……勉強、検定、バイトなど今年度の目標を立ててそれに向かって努力しましょう。

平成31年度 健康診断

自身の健康状況を把握しておくことはとても大切なことです。学校での検診の機会を有効に活用してください。学校で受診できるよう予定にいらしておきましょう。

日時：平成31年5月28日（火）午後

内容：眼科、歯科、耳鼻科、身長、体重、視力、聴力、尿、診察、胸部X線・心電図（該当者のみ）

- 健診費用は無料です。
- 特別活動にカウントされます。
- 眼科、耳鼻科、歯科検診も同時に受けることができます。
- 学校で受けられない場合は、他の機関で受けることになります。



※詳しい時間等は次号で連絡します。

◆『花粉症』と効果的な対策

◇『花粉症』とは？

花粉症は、アレルギー性鼻炎の1つです。体内に侵入した花粉（外敵）を取り除こうとする働きが行き過ぎて、過剰な反応（アレルギー反応）を起こし、不快な症状を発生させます。



◇『花粉症』の効果的な対策は？

- ①花粉のつきにくい服を選ぶ。
- ②マスク、帽子等を着用する。
- ③家に入る時は花粉をはらう。
- ④手洗い、うがい等を心掛ける。
- ⑤室内の湿度を適度に保つ。





新年度が始まります

今年は平成最後の年となり、みなさんが前期の活動を始める頃には新元号が発表になっていることでしょう。

4月は学校行事も盛りだくさんです。学校からの案内をきちんとチェックして、参加してください。



日程	行事	備考
4月 7日(日)	在校生受講手続き	ルームによって登校時間が違います。案内をきちんと確認して自分のルームの時間に登校してください。 ※教科書無償申請の書類提出
4月 11日(木)	新入生一日入学	平成31年度入学生のみでの登校です。在校生は登校する必要はありません。
4月 14日(日)	入学式	
4月 21日(日)	前期全校集会	教科書、レポートを渡す大事な会です。平成31年度はレポートの提出方法や渡す方法が今までと大きく異なっています。全校集会に参加して説明を聞きましょう
4月 24日(水)	益田プレスクーリング 保健センター3F (EAGA)	平成31年度入学生向けに「レポートの提出の仕方」、「レポートへの取り組み方法」などを説明する会ですが、在校生も参加してレポートに取り組んだり、学習計画を立てたりすることができます。
4月 25日(木)	大田プレスクーリング あすてらす 研修室3 浜田プレスクーリング 本校	
4月 28日(日)	本校スクーリング1回目	新年度最初の本校スクーリングです。
5月 7日(火)	火曜スクーリング1回目	新年度最初の火曜スクーリングです。
5月 12日(日)	本校スクーリング2回目 協力校スクーリング1回目	新年度最初の協力校スクーリング開催日です。



※詳細は学校からの案内を確認してください。

※4月7日(日)の受講手続きの時に「教科書無償申請」の書類を提出してください。(提出がない場合、教科書代が必要になります。) **就労証明書など証明書類**が必要になりますので早めに準備をしておいてください。

平成31年度開講講座一覧表 半期ごとに単位認定する科目

＜前期＞						＜後期＞						
教科名	講座名	単位数	レポート回数	面接時間数	試験	教科名	講座名	単位数	レポート回数	面接時間数	試験	認定時期
国語	国語総合（前）	2	6	2	有	9月 末	国語総合（後）	2	6	2	有	2月 末
	現代文B（前）	2	6	2			現代文B（後）	2	6	2		
	古典B（前）	2	6	2			古典B（後）	2	6	2		
地歴	世界史B（前）	2	6	2			世界史B（後）	2	6	2		
	日本史B（前）	2	6	2			日本史B（後）	2	6	2		
	地理B（前）	2	6	2			地理B（後）	2	6	2		
公民	現代社会（a）	1	3	2			現代社会（a）	1	3	2		
	現代社会（b）	1	3	2			現代社会（b）	1	3	2		
	政治・経済（a）	1	3	2			政治・経済（a）	1	3	2		
	政治・経済（b）	1	3	2			政治・経済（b）	1	3	2		
数学	数学I（1）	1	4	2			数学I（1）	1	4	2		
	数学I（2）	2	6	2			数学I（2）	2	6	2		
	数学II（前）	2	6	2			数学II（後）	2	6	2		
	数学A（前）	1	3	2			数学A（後）	1	3	2		
	数学入門	2	6	4			数学入門	2	6	4		
理科	科学と人間生活（前）	1	3	4			科学と人間生活（後）	1	3	4		
	物理基礎（前）	1	3	4			物理基礎（後）	1	3	4		
	化学基礎（前）	1	3	4			化学基礎（後）	1	3	4		
	生物基礎（前）	1	3	4			生物基礎（後）	1	3	4		
保健体育	体育1（前）	1	1	5			体育1（後）	1	1	5		
	体育2（前）	1	1	5			体育2（後）	1	1	5		
	体育3（前）	2	2	10			体育3（後）	1	1	5		
	体育4（前）	1	1	5			体育4（後）	1	1	5		
	体育5（前）	1	1	5			体育5（後）	1	1	5		
	保健（前）	1	3	1			保健（後）	1	3	1		
芸術	美術I（前）	1	3	4			美術I（後）	1	3	4		
	美術II（前）	1	3	4			美術II（後）	1	3	4		
	書道I（前）	1	3	4			書道I（後）	1	3	4		
	書道II（前）	1	3	4	書道II（後）	1	3	4				
外国語	英語表現I（前）	1	3	4	英語表現I（後）	1	3	4				
	コミュニケーション英語I（前）	1	4	4	コミュニケーション英語I（後）	2	6	8				
	コミュニケーション英語II（前）	2	6	8	コミュニケーション英語II（後）	2	6	8				
	英語入門（1）	1	3	4	英語入門（1）	1	3	4				
	英語入門（2）	1	3	4	英語入門（2）	1	3	4				
家庭	家庭総合（前）	2	5	4	家庭総合（後）	2	5	4				
	消費生活（前）	2	4	4	消費生活（後）	1	2	2				
	服飾手芸（前）	1	2	3	服飾手芸（後）	1	2	3				
	子どもの発達と保育（前）	2	5	4	子どもの発達と保育（後）	2	5	4				
情報	社会と情報（前）	1	3	2	情報	社会と情報（後）	1	3	2			
商業	ビジネス基礎（前）	1	2	3	商業	ビジネス基礎（後）	2	4	3			
	簿記（前）	2	4	4	簿記（後）	2	4	4				
	情報処理（前）	2	4	7	情報処理（後）	2	5	7				

通年で単位認定する科目 →

＜前後期併せて＞				
総合的な探求の時間	3	3	3	無
				2月末

平野副校長より



雑感 ～ これから生きる皆さんへ ～

まもなく平成が終わり新しい時代が始まる。時の流れは誰にも止められず、誰にも幼い頃があり誰も年老いてゆく。どんな人にも平等に与えられているものの一つが1日24時間の時間だ。将来「充実した人生だった」と満足感とともに振り返られるかどうかは、この24時間をどう過ごすかにかかっているのだろう。

人生は長いようで案外短いかもしれない（終わってみないとわからないが…）。なぜなら、子供の頃1日はもっと長かったように感じていたが、50歳を過ぎた今は1日がとても短く感じられるからだ。この歳になっても、私にはやりたいことがまだたくさんある。しかし人生はそれらすべてを体験するには短すぎる。だからこそ人は読書をし、先達から学ぶべきで、学びの意義はそんなことにもあると思う。

ところで、皆さんはアップル社という会社を知っているだろうか？ iPhoneやiPadの会社と言ったら理解してもらえらるだろう。アップル社の創業者はスティーブ・ジョブズ（1955年～2011年）という人物で、彼は世の中を大きく変えた偉人の一人である。偉業を成し遂げた人物の言葉は、これから生きる君たちにとって参考になると思うのでいくつか紹介しよう。

「昔を振り返るのはここでやめにしよう。大切なのは明日何が起きるかだ。」

失敗しない人生などあり得ない。むしろ失敗から学ぶことの方が多いいものだ。何事にも思い切って挑戦し失敗も経験すればいい。大切なことはチャレンジ精神をもつことだと思う。

「未来を見て、点を結ぶことはできない。過去を振り返って点を結ぶだけだ。だから、いつかどうにかして点は結ばれると信じなければならない。」

これもまたスティーブ・ジョブズの言葉だ。先のことは誰にも分からない。こう生きたいと願っても、そのように生きることができるとはわからない。そもそも、こう生きたいと思ったとおりに生きたとして、それが本当に満足感をもって振り返られる人生になるとは限らないのだから信じるしかない。君たちにできることは、今の自分の限りを尽くして自分の頭で考え、今を精一杯生きることだ。

しかしそれだけでは満足感に満ちた生き方はできないと私は考える。ジョブズの次の言葉をよく考えてほしい。

「知っていると思いますが、私たちは自分たちの食べる食べ物のほとんどを作ってはいません。私たちは他人の作った服を着て、他人のつくった言葉をしゃべり、他人が創造した数学を使っています。何が言いたいかというと、私たちは常に何かを受け取っているということです。そしてその人間の経験と知識の泉に何かをお返しができるようなものを作るのは、すばらしい気分です。」（下線付加）

ジョブズのものづくりの精神には見習うべきところがある。自己中心的な風潮の強まる現代社会において、多くの人に支えられていることに気づき、感謝の心を忘れず他者の幸いを自らの喜びとできるこそ満足感に満ちた生き方のできる人だと思う。それが仕事であろうと日常生活においてであろうと、そのような人は社会に大いに貢献していると言えるのだ。君たちにはそのような人物に成長してほしいと願っている。君たちの心の奥深くにもそのような願いが眠っていると私は信じている。貢献できる自分になる志を立て、来年度もしっかり学習に取り組んでほしい。

